2022年度
自己点検・自己評価報告書

学校法人　日産学園
専門学校　　日産愛知自動車大学校

2023年6月8日　作成

目　　次

基準1　教育理念・目的・育成人材像等

【1】 理念・目的・育成人材像
1-1　理念・目的・育成人材像は定められているか　P1

【2】 学校の特色
1-2　育成人材像は専門分野に関連する業界ニーズに適合しているか　P1

【3】 学校の将来構想
1-3　社会のニーズを踏まえた将来構想を描いているか　P2

基準2　学校運営

【1】 運営方針・事業計画
2-1　理念等を達成するための運営方針と事業計画を定めているか　P3

【2】 運営組織
2-2　設置法人は、組織運営を適切に行っているか　P3

【3】 人事・給与制度
2-3　人事・給与に関する制度を整備しているか　P3

基準3　教育活動

【1】 目標の設定
3-1　理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか　P4

【2】 教育方法・評価等
3-2　教育目的、目標に沿った教育課程を編成しているか　P4

【3】 成績評価・単位認定等
3-3　成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか　P4

【4】 資格・免許の取得の指導体制
3-4　目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置付けているか　P5

【5】 教員・教員組織
3-5　資格・要件を備えた教員を確保しているか　P5

基準4　学修成果

【1】 就職率
4-1　就職率の向上が図られているか　P6

【2】 資格・免許の取得率
4-2　資格・免許取得率の向上が図られているか　P6

【3】 卒業生の社会的評価
4-3　卒業生の社会的評価を把握しているか　P6

基準5　学生支援

【1】 就職等進路
5-1　就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか　P7

【2】 中途退学への対応
5-2　退学率の低減が図られているか　P7

【3】 学生相談
5-3　学生相談に対する体制は整備されているか　P7

【4】 学生生活
5-4　学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか　P8

【5】 保護者との連携
5-5　保護者との連携体制を構築しているか　P8

【6】 卒業生・社会人
5-6　卒業生への支援体制を構築しているか　P8

基準6　教育環境

【1】 施設・設備等
6-1　教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備しているか　P9

【2】 学外実習等
6-2　学外実習・インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか　P9

【3】 防災・安全管理
6-3　防災に対する組織体制はを整備し適切に運用しているか　P9

基準7　学生の募集と受入

【1】 学生募集活動
7-1　学生募集を適正、かつ効果的に行っているか　P10

【2】 入学選考
7-2　入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか　P10

【3】 学納金
7-3　経費内容に対応し、学納金を策定しているか　P10

基準8　財務

【1】 財務基盤
8-1　学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか　P11

【2】 予算・収支計画
8-2　教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか　P11

【3】 監査
8-3　私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を行っているか　P11

【4】 財務情報の公開
8-4　私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか　P11

基準9　法令等の遵守

【1】 関係法令、設置基準等の遵守
9-1　法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営を行っているか　P12

【2】 職業実践専門課程認定要件
9-2 職業実践専門課程の認定要件を満たし、適正な教育運営を行っているか　P12

【3】 個人情報保護
9-3　学校が保有する個人情報に関する対策を実施しているか　P12

【4】 学生評価
9-4　自己点検評価、学校関係者評価を適切に行っているか　P12

【5】 教育情報の公開
9-5　教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか　P12

基準10　社会貢献・地域貢献

【1】 社会貢献・地域貢献
10-1　学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか　P13

【2】 ボランティア活動
10-2　学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか　P13

基準11　国際交流

【1】 国際交流
11-1　国際交流活動を行っているか。　P13

2023年6月8日

◆愛知校　自己点検評価　報告書（2022年度活動評価）

日産愛知自動車大学校

※ 評価凡例　：4．適切　3．ほぼ適切　2．やや不適切　1．不適切　NA　当てはまらない
※ CM科→カーボディマスター科、MM科→マスターメカニック科

基準1　教育理念・目的・育成人材像等

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか。	4	・理念・目的・育成人材像は、当校の「教育理念」及び「教育方針」の形で、明確に定められている ・教育理念・教育方針に則り、中期/年度の活動方針を展開し、教育活動に反映している。 ・教育環境変化を反映し、不定期の見直しを実施している。（2010年、2013年に見直しを実施した） ・3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）を掲げ、教育理念に基づいた人財育成のあり方を明確化している。 ・2022年度～2024年度の「学校法人 日産学園」の中期計画、および2022年度計画を策定、2022年3月での理事会、評議委員会にて承認された。 学校関係者委員会、教育課程編成委員会等での外部有識者との意見交換を通して、教育理念や育成人財像の確認を行っている。 教育部では、人間力を育むために、自主性、主体性を視点に学生の育成を図っている。あらたに「学びの3要素」の視点を取り入れ、学生の能動的な学び、学習にも取り組む。人間的成長を図る指標として、大学等に取り入れられているPROGのDATAが蓄積されており、成長したポイントの分析を進めることで、効果的な教育を模索している。特に、自主性、主体性を育むにあたり、学生個々人のレベルに合わせて対応していくために、ルーブリックという技法の導入を進めている。留学生も含めて、多様化する学生に丁寧かつ効果的な教育の提供を進めている。 コロナ禍の対応も含め、2022年度からICT教育を本格的に導入。新入生にノート型PCを配付し、学科、実習授業から先生とのコミュニケーションなど、学校生活全般で活用し、時代に合った新たな学びを提供している。	コロナ禍において、学生の人間力を強化する取り組みは大きな制限を受けることとなった。 2020年度、2021年度では、行事、イベントをとおしての教育活動は、事実上、皆無であった。 コロナウイルスの感染状況によっては、遠隔授業に移行せざる得ないこともあり、通常授業にも影響を及ぼし、計画的に自主性、主体性を育むことが困難な状況であった。 しかし、2022年度からは徐々に学生活動が復活した。 学生が主体となり、教職員への提案や上申をするなど、コロナ以前の状況に戻りつつある。 ニッサンメカニックチャレンジ参戦、学園祭の復活、一級3年生の国内研修旅行、東京オートサロンへの出展など、ほぼ学生のみなさんの自治により運営された。 ICT教育を推進しており、より主体性のある学生には大変効果的なツールになっている。 年々、PCやタブレットの操作に慣れた学生の比率が多くなってきているが、二極化傾向にもあるため、そのフォローが課題でもある。 また、人間力の強化において、留学生の方の育成は、相対的に難しくなっている。言葉の壁の要因が大きいが、日本における生活習慣、慣例、慣習なども影響している。 この対応も、経験を蓄積して継続的に取り組んでいきたい。	a．ホームページ(教育理念） b．学校案内パンフレット

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界ニーズに適合しているか。	4	【自動車整備科、一級工学科】 日産自動車が展開する整備技術やお客さま対応スタンダードを実践的に指導することで、整備業界をリードしていくにふさわしい人財の育成に努めている。コロナ感染対策において、学習環境を柔軟に変更し、ICT教育を加速させることにより、学習の利便性と効果的な教育を提供した。この効果もあり、国家二級資格は、学生全員がガソリン資格、ジーゼル資格を取得し、完全合格を達成した。 業界が求める整備士要件は幅広くなってきており、技術力と人間力の向上を意識したカリキュラムで学生指導を行っている。 更に、自動車高度技術への対応要請はこれから増々強くなると考えられ、一級自動車工学科での対応検討が必要と認識しており、カリキュラムの充実化を図っている。国家一級整備士資格は、80%を超える合格率となり、昨年度から挽回した。全員合格を目指す上で、不合格者の分析や取り組みの振り返りが不可欠である。一級課程、整備課程ともに、エーミングをはじめとした特定整備カリキュラムを導入し、先端整備技術の習得に努めている。 学校評価委員会、教育課程編成委員会、および企業アンケートなどを通して、業界ニーズの変化をつかむよう留意しており、授業カリキュラムや学生指導に反映させるとともに、PDCAをまわしている。 自動車整備科では、整備技術の習得に加え、自主的に物事を進められる能力の育成を進めて行く。能動的な学びにつながるアクティブラーニングの手法の導入。その一方で、学生の自己の成長を見える化し、自己研鑽のモチベーションとなるように、「ルーブリック」の手法を試験的に導入を始めた。この取り組みについても、学校関係者評価委員、および教育課程編成委員のみなさまへ報告、期待値とともに評価していただいた。	自動車整備科では、完全合格を達成したが、留学生も含めて、依然として学生間での学力差が大きくなっている。 その中でも、FY22においては、国家二級資格試験は完全合格しており、、長期スパンでの指導、育成の成果が顕在化したと感じる。そのため、その指導、教育を体系化して、学校としての経験値を高めていきたい。 特別な受験対策勉強に加え、2年間を見越した対策、対応を検討していく。 一級工学科では、国家一級資格試験の合格率は向上した。模擬試験では合格ラインにいる学生が不合格になっているケースもある。進捗の経緯を分析して、今後の対策につなげる。学校としては、全員合格を目指し、継続的に取り組んでいく。 自動車整備科、一級工学科ともに、CASEに代表される、自動運転技術や、それに伴う特定整備等に対応するため、エーミング技術の修得をカリキュラムに取り入れた。 特に一級工学科において、高いレベルで知識と技術を習得するため、他の課程の学生にもレクチャーできるようになっている。 卒業研究においても、プロパイロットパーキング（自動駐車）技術をさらに進化させる研究を行うなど、更なるレベル向上が図られている。 コロナも収まりつつあるため、このような成果を、いかに分かりやすく、関係者（ステークホルダーの方々）へプレゼンテーションするかが、今後の課題となる。 また、継続して、日産自動車から開発担当者の方に来校いただき、これからの自動車の未来や可能性、開発の方向性などについて講演を開催した。先進技術への理解促進を図るともに、同時に学びのモチベーション向上にもつなげる。	a．ホームページ （学長メッセージ、教育理念） b．販社アンケート c．学校評価委員会議事録 d．教育編成委員会議事録
		【カーボディーマスター科、マスターメカニック科】 自動車整備技術に加え、更に専門性を有する技術の習得を目指す学科として、多様な業務に対応できる人間力を兼ね備えた技術者育成に努めている。 車体業界・自動車整備業界それぞれから求められる新技術の分野を検討し、これからの学生育成に反映している。 コロナ禍における規制が幾分緩和されたため、制作車両の出展を通して、お客さまにその技術力をPRするコミュニケーション力も育んでいる。このように、板金、塗装の技術に加え、人間力の強化も図れている。特に車両制作における企画力、チームをまとめるリーダーシップなどは苦労と困難が伴うほど、大きな成長につながっている。 マスターメカニック科では、自動車整備の枠を超えた幅広い視点を有する学生の育成をめざし、楽しく自動車と向き合えるような授業の提供を推進していく。製作した自動車の走行会などは、年々充実しており学生の満足度は高まっている。	カーボディマスター科の課題は、1年間という短いスパンの中で、溶接、板金、塗装、カスタマイズ技術を学び、短期間で車両制作を終えるいう厳しいカリキュラムがある。 意欲的な学生は積極的に取り組み、ハードルを超えて成長してく。一方で多様化する学生において、オーバーフローも懸念される。 学生一人、ひとりの個性や能力をより丁寧に把握して、育成について吟味していきたい。そのツールにルーブリックを準備しており、今後の効果に期待したい。 カーボディマスター科、マスターメカニック科ともに、CASEに対応するため一級学生との交換授業において、エーミングやキャリブレーションスキルの習得に励んでいる。時代とともに進化する自動車に対応するため、いかに体系的に先進安全技術の理解を促進していくかが課題となる。	

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料
1-3 社会のニーズを踏まえた将来構想を描いているか。	4	中期計画を策定する中で、社会ニーズにあわせた将来構想の検討と対応方策を立案している。中期計画2年目が終了。 ①整備士の量的不足対応と学生学力レベルの維持向上 ⇒募集方策強化、留学生拡大に合わせた教育検討 ②整備技術高度化と技能制度化への先取り対応 ⇒一級自動車工学科カリキュラムの改善、自ら学び続けることのできる人財の育成検討 ⇒CASEという技術革新に伴った整備スキル（特定整備）の更なる向上を目指し、更なるカリキュラムを導入。 ③整備技術の多様化対応と真の自動車好きの育成 ⇒カーボディマスター科の増員対応、マスターメカニック科カリキュラムの充実化 ④留学生の受け入れ拡大と就職先の開拓 ⇒留学生支援策の検討と企業との連携強化 ⑤ICT教育の促進とデジタル化社会への対応 コロナ禍ではあったが、概ね順調に推移している。 その進捗と課題については、右欄に記載する。	日本人18歳人口の減少傾向に歯止めがかかっておらず、整備士の量的不足に抜本的に応えることが出来ていない。 加えて、コロナ禍において2年連続して、計画どおりの学生募集活動が困難を極めた。今後、弾力的に対応できるように改善していく。 ①日産校の魅力を伝える募集ツール改善と活動の早期化、および他校との差別化。 特に一級自動車工学科、カーボディマスター科、マスターメカニック科などの上級課程を訴求することで、日本人の3年課程以上への進学が年々向上している。 ②日産インテリジェントモビリティ（CASE）に代表される高度先進技術を学ぶ授業の導入した。2020年度から特定整備につながる「エーミング」技術を習得するカリキュラムを導入し、自動車整備の可能性とその魅力の訴求に努めた。 先進安全技術（ADAS）と電気自動車は、日産校の強みでもあるため、更なる充実を検討していく。 特に一級自動車工学科においては、日産自動車開発担当者からの講演を定期開催することで、ADASへの知見を深めるとともに、一級自動車工学科の魅力向上に寄与した。 ③カーボディマスター科、マスターメカニック科の魅力発信の強化 カーボディマスター科は東京オートサロン出展を軸に板金塗装の技術の高さを発信、マスターメカニック科では走行会の充実させて、その取り組み動画で披露することで課程の魅力につなげている。 ④日本語学校との連携強化、留学生向け支援策の検討、在校留学生とのコミュニケーション支援。 コロナの影響により留学生の入学が激減した。24/4入学対象者は大幅に増加しているため、引き続き、日本語学校との連携を図っていく。 ⑤ICT教育を推進する上で、校内Wi-Fi環境の強化、および教育プラットフォームに整備し、学生にノート型PCを用意した。その拡張性の高さから学習の更なる利便性を追及していく。 授業動画を提供し時間と場所を選ばず復習ができる環境を提供。データでのレポート提出など、創意工夫を促すと、アニメーションでの構造作動を作成するなどの提出があり予想以上の効果もあった。期末試験ではPCを活用して実施するなど、自動採点の活用もあり、教職員の負担削減、効率化につながった。アンケートなどは、グーグルフォーム活用することでとても大きな工数削減となっている。活用度合いによっては学生の二極化が懸念されたが、想定以上に使い熟しているように感じる。	a. 中期計画（2022～2024年） b. 2022年度活動実績 c. 学校評価委員会議事録

基準2　学校運営

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
2-1 理念等を達成するための運営方針と事業計画を定めているか。	4	教育理念と教育方針に基づいて、中期方針と年度計画を定めており、学内で周知徹底を図っている。 学校案内パンフレットやホームページに掲載し、オープンキャンパスでの説明により学外に広く公表している。 年度計画の振り返りと次年度計画に関しては、理事会評議委員会をはじめした学園会議体、および本校における学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会など、外部の有識者からの評価を教職員と共有し、PDCAにつなげることで事業計画の推進に努めている。	事業計画の中核をなす学生募集や国家試験合格率、就職率など、情報公開等で告知をし、計画振返りと次年度への反映を確実に実施し、第三者に分かりやすい形で情報公開に努めている。	学校案内パンフレット ホームページ

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
2-2 設置法人は、組織運営を適切に行っているか。	4	学校法人及び日産・自動車大学校（※1)として、【決定基準】でその意思決定の権限基準を決めており、愛知校としては組織図と業務分担表でそれぞれの権限基準と職務を示しており、それぞれが有効に機能している。 法人本部と愛知校の役割分担は、必要に応じて実効性を考慮した見直しを行っている。 日産学園各校と連携することで、業務のノウハウの共有から効率化も図っている。 上記加え、日産自動車(株)の監査を受け、指摘があった項目の改善に努め、完了した。	経費処理を中心に、年一回の内部監査を実施しおり、決定基準の適切な運用を図っている。 法人内の基準・ルールはイントラネット上に公表されており、必要に応じて整備と見直しを推進していく。 各稟議書等の申請、承認は電子化を図り、迅速かつ透明性を担保し、運用されている。 2022年度から日産自動車の監査を受けて指摘事項は改善したが、これを定着させることが今後の課題となる。	a.組織図（日産自動車大学校） b.組織図（日産愛知自動車大学校） c.決定基準(日産自動車大学校） d.決定基準（日産学園） e.基準ルール（イントラ掲載）

※1:日産・自動車大学校　～　日産の冠を持つ5つの学校（3つの法人＝　（学）日産学園【栃木校、愛知校、京都校】（株）日産自動車【横浜校】（学）愛自学園【愛媛校】のアライアンス活動の総称。

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
2-3 人事・給与に関する制度を整備しているか。	4	人事制度、給与制度は整備されており、それぞれ必要に応じて適宜見直しを行っている。 人事考課では、コンピテンシー評価と業績評価の2本立て評価制度を採用しており、教職員に周知徹底している。 賃金は労働組合との協議により必要な改定を行っている。 春は賃金、秋は労働環境改善の交渉を行い、整備、改善を行っている。 また、毎月、校内にて労使による職場懇談会を開催し、働く環境における諸問題の早期解決を図っている。	法人本部と連携し、引き続きコンピテンシーの定義は、教職員がより分かり易いものを目指して表現を改訂していく。 年3回以上の面談を行い、課題設定、中間評価、最終評価等を話し合うことでモチベーション向上につなげている。 業績評価は仕事ランク別の評価方法を導入。 賃金昇給の配分や手当てについては、労働組合の要求を含めてそのあり方の検討を継続していく。 定期的な労使での懇談会を開催しており、常日ごろから、労働諸条件および賃金関連も含めた円滑なコミュニケーションを図っている。 定年退職などによる教職員の補充は、社会の人手不足も相まって年々厳しさを増している。早期での人材獲得を計画的に進める必要がある。	a. 就業規則（イントラ掲載）

基準3　教育活動

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
3－1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	4	理念、教育方針に沿って教育課程の編成・実施方針を策定することを基本としている。15年度より取り組んでいる重点方針「楽しい学校」（学生が楽しく=夢中に学ぶ）に加え、18年度以降は教育の質の向上を図るために、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの3ポリシーを整理し、それに適った方策を実施している。 ディプロマポリシーにおいては、履修、資格に関することは、組織、体制からも、ノウハウも積み上がり、目標の達成に向けて、教職員共々、同じベクトルで取り組んでいる。 また、定性的な人間力（自主性、主体性）に関しても、教職員に浸透しており、教育の施策には、常に自主的な主体的な取り組みになるように工夫がみられる。整備科においては、自主的な取り組みができない学生の方々がいるのも実情であり、学生の個々のケース(素養、能力)に応じて柔軟に対応していく必要性も感じる。FY20以降は、コロナ禍の影響もあり、ほとんどの行事が未実施となり、学生のみなさんは自主的主体的な取り組みを促す多くの機会を失った。だが、FY22から感染防止策を徹底することで、様々な行事を再開。学生からの申し出もあり、学園祭が3年ぶりに開催されるなど、学生自らの自主性・主体性を発揮する場となった。 更にICT教育の取り組みも始まり、学生自ら情報収集することやコミュニケーションツールとしてクロームブックを活用している。	17年度で整理した3つのポリシーの実現に向けて、18年度以降は授業、生活指導を通して、学生の自主性、主体性の育成を重視し、21年度には、更に表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」）の一つである「思考力・判断力・表現力等」※を付け加えた。 これまで行事が中心であった人間力育成を、今後は授業を核に、能動的な学びを通して、育んでいく。 ※問題を発見し、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、プロセスを振り返って次の問題発見・解決につなげていくこと（問題発見・解決）や、情報を他者と共有しながら、対話や議論を通じて互いの多様な考え方の共通点や相違点を理解し、相手の考えに共感したり多様な考えを統合したりして、協力しながら問題を解決していくこと（協働的問題解決）のために必要な思考力・判断力・表現力等である。 また、その育成度合を定量的に判定するためPROG（ジェネリックスキル測定試験）を設定。20年度末には、2年間の成長度合いを確認できるデータが揃うことから、今後、詳細について分析を行い、効果のある方策を検討する。 更に次年度には、実習授業の中で、自主性を育むツールとしてルーブリックを活用した行動訓練を並行して実施する予定。 PROG評価に併せ、ルーブリックによる行動訓練を繰り返すことで一貫性を持った学生育成を目指す。	a.FY22年度計画【教育部】 b.PROG資料（22年度結果） c.ルーブリック評価基準表

	点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
	3-2 教育目的、目標に沿った教育課程を編成しているか。	4	［整備科・一級自動車工学科］学科、実習共に、学生が修業年限で到達レベルに達する為に理解しやすいよう、教える内容、教える時間、内容のポイントを体系化した標準カリキュラム、学習シートを保有（実習は実習内容を体系化した実習スタンダードを保有） 実際使用するカリキュラムは各校の教務、教科リーダーが各校の事情に合わせ一定の範囲内でカスタマイズしている。 教科書改訂や企業のニーズなどを定期的にチェックし、毎年、次年度に向けて、改定すべき点を確認し、日産5校でカリキュラム改善の検討を行い、幅広く見直しを行っている。 20年度には、授業改善プロジェクトを立ち上げ、一教員2テーマ／年以上の授業改善案の提出、並びに定期的教科ミーティングや教員間での学内研修会を実施している。 また21年度より、コロナ禍の影響を受け、オンデマンド教材を多数作成。今では既存のオンデマンド教材が予習や復習に使えるツールとして活用している。 また、年々増加する留学生については、修学へのモチベーションが高く、質の高い留学生が入学していたが、22年度は、前年からの入国規制により、大幅に減少している。	適切な水準にあると考えている。更に学校でこそ行える、より本質的であったり専門的な教育、更に学ぶ者が自主的に取り組む仕組みづくりを模索している。また高度先進技術については、すべての課程にエーミング等をカリキュラム導入し、その他、先進技術の推進を図るべく、CASE（日産インテリジェントモビリティー）の教育についても、日産自動車と連携し、実施している。 一級課程はより魅力的かつ人財育成に効果的な教育として、19年度には主体性を育むべき、アクティブラーニング形式の授業を導入し、22年度には、全実習教科に導入した。 4年目となる生徒については、高度な卒業研究の課題を与え、更に学生の主体的につながる取り組みを促し、研究発表につなげていく。 留学生の増加に伴い、日本語も含めた更なるサポートが課題。文化や生活習慣に留まらず、犯罪等に巻き込まれないように、特別の啓蒙を実施しているが、社会の動向も踏まえ引き続き強化していく。	a.学びの樹 b.実習STD(スタンダード) c.授業計画書 d.授業改善シート e.3つのポリシー f.オンデマンド教材リスト
【CM科】 【MM科】		3	カーボディマスター科及びマスターメカニック科の3年課程については、先進技術の教育を一級工学科の在校生の支援を得ながら、エーミング調整の講習会を実施。併せて、特定整備主任資格の講習会も行った。 更にマスターメカニック科は、カート、2輪、4輪のカリキュラムのボリュームのバランスや、各内容の実施時期の最適化を見直し、改訂し改善を図っている。	カーボディマスター科教員の新技術の習得を図る必要がある。また、基本技術も、現場のニーズの変化に併せ、重板金等から、高張力鋼版などのハイテン材への対応も検討が必要。 マスターメカニック科は、学生数の安定が課題である。そのため、カリキュラムが若干、安定していない。整備科を経て、MM科に進学するときには、当初の学生数から減少することがあったため、2022年度より3年課程にし、つながりを持たせ転科を防いでいく。	d、車体教育課程編成委員会議事録 （2022/7月、2月開催）

	点検小項目	評価	ア　現状認識・評価等	ウ　課題とその解決方向	参考資料
	3-3 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	4	成績評価・認定、その先の進級、卒業の基準も明確になっている。3つのポリシーにて、各課程のディプロマポリシーを明確にし、それに沿った教育を行っている。	3つのポリシーにそった人財育成を開始し6年を終え、徐々にではあるが、教職員、学生ともにポリシーの浸透を感じている。 学生には自己チェックシートを用いて、隔月に確認し醸成を深めている。引き続き教育活動の中で機会を見つけて教職員、学生に繰り返しポリシーの要素を伝え浸透を深めていく。また、平素の学生指導の中でも、自主性、主体性を軸にした指導を継続する。	a. 学則 b. 学ナビ c. 自己評価集計表
【CM科】 【MM科】		4	3つのポリシーに沿った教育を継続実施。		c.カーボディマスター科、マスターメカニック科卒業要件

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
3-4 目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置付けているか。	4	すべての法定教科は目標とする資格（国家一級、国家二級、国家車体）に繋がるものであり、年間カリキュラムに織り込んで明確に定められている。直前の国家資格対策もカリキュラムに織り込んでいる。 2年間、3年間、4年間の中で、上記カリキュラムで履修した内容の理解度確認を定期的に統一試験として実施。併せて直前の国家試験対策でサポートしている。 JAMCA全国統一模試も各科で受験し、自校のレベルを確認している。	国家一級資格取得については、21年度は、近年にない69.6%という低い合格率となったが、22年度は、85.7%の結果となった。引き続きPDCAを回すことで更なる高い合格率を目指す。 国家二級資格取得については、年々留学生が増加する中、21年度は、早期から二級学習に着手するが、終始前年度の成績推移に追いつけず、ジーゼル3名、ガソリン8名の不合格者（ダブり1名）が発生した。22年度には、更に全体の7割と過去最大の留学生数になることから、国家二級学習を4月期初から着手。低位層の留学生の多く、終始苦戦を強いられたが、総力結集のもと、卒業生全員が国家二級を取得することが出来た。	a.年間計画(カレンダー、凡例) b.統一試験 c.特訓計画

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
3-5 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	4	必要な資格、一定の専門性を有した教員を常勤で確保。専門性や、教授力向上の為の、力量の把握や、教育にも力を入れている。国家一級資格については、22年度、8割になる教員が保有している。 新技術や業界の新しい仕組み等を学ぶ研修は、日産自動車主催の各種研修に定期的に派遣している。 教授力、学生指導における教員教育は、外部での初年度教育を受けた後、上司の授業聴講での指導や、日産5校でインストラクション研修を開催することで技術の向上に努めている。また、ICT教育も推進が進み、新任の教員に対しても、適宜レクチャーを施している。	教員の所属課程のローテーションは教員の質向上のために、更に拡充していく。また22年度は、一級資格取得支援を更に強化することで、2名の教員が取得した。23年度も引き続き、取得者数増を目指す。 昨今、企業就職後に自発的な行動ができない、対人関係が作れないなどの理由で早期に離職してしまう卒業生が増加。 そのため、教員の能力として、学生の自発的な行動力や対人関係の育成力の養成を進める（研修・個別指導）。 外部講師にて全教員の対人関係力、ストレス耐性を学ぶ研修、更には一部教員がコーチングの研修を受講している。今後は対人関係力について、学生の自主性、主体性の育成する中で、教員自らも改めて自主性、主体性を考える機会としている。 また、高度化先進化する自動車産業において、その方向性や将来展望など、自動車メーカーから講師を招いて研修を行っている。	a.教員資格一覧 b.教員研修計画 c.教員研修報告
【CM科】 【MM科】	4	CM科：十分な企業での車体整備経験を有しており、資格も車体整備士資格を取得済みである。 MM科：国家一級資格を取得している経験豊富な教員が担当し、知識、技術の両面で指導をしている。		

基準4　学修成果

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料
4-1 就職率の向上が図られているか	4	就職（求職）対象者全員に対して、就職先を斡旋し、毎年100％の実績を上げている。活動年度に半年間をかけて業界研究から企業研究、採用試験指導に至るまで段階的な就職指導を行っている。 就職対象者全員の、受験ならびに内定までの活動状況をタイムリーに把握しつつ卒業までに100％を目指す体制を敷いている。 社会人経験のある30～60代の学生が増加してきており、当該学生の就職斡旋について他の学生に比べ、面談を増やす等対応を手厚くし、就職率の向上を図っている。 留学生も多く、日本企業へ就職するための文化の違いを理解させることが課題の一つとなっている	就職内定に向けて、入学当初から社会人としての動機付けと、社会人に向けての積極性を養う観点で、学生主体の活動を後押ししている。教職員による日頃からの身だしなみ指導はじめ、企業人による自動車業界の理解度向上授業の実施（企業連携）。自分の適性、能力を客観的に分析し、自分の強みを生かし社会で活躍できるよう体系的な就職指導（外部講師）を行っている。内定後も企業が求める魅力的な人材になるよう卒業まで磨きをかける。（内定者研修実施による定着率向上） 留学生に対して、留学生専用の就職授業を実施。日本企業へ就職するため文化の違い、手厚い履歴書作成や面接の指導を実施している。	a.就職活動計画 b.就職概況

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
4-2 資格・免許取得率の向上が図られているか	4	資格取得において、日産5校で指導計画を共有し統一試験実施等、連携した取り組みをしている。【一級、二級、車体ともに】 国家二級整備士資格、車体整備士資格は2018年度まで、100％の取得率を維持してきたが、2019年度以降、高い合格率を維持出来ているものの、年度によりばらつきがある。 国家一級整備士資格においては、学生個々の理解力を把握する取り組みを行い、早期から国家資格の受験対策に取り組み、21年度、7名の不合格者が発生したが、22年度においては、85.7％まで盛り返すことが出来た。	国家二級資格及び車体整備士資格においても、常に効率的・効果的な取り組み方法を検討し続けていく。 また年々増加する留学への指導については、日本語能力の関係（特に漢字の読み）から、22年度では、4月期初からの指導を開始している。 国家一級においては、3年生から一貫性を持った指導を行ってきたが、メンタルを含め、持続性を養う指導も必要と感じている。 国家資格取得学習における学生モチベーション維持は重要な要素であり、動機付けを踏まえ、カリクラムの改善を図っていく。	資格別、年度別合格率一覧

[redacted]

	点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
	4-3 卒業生の社会的評価を把握しているか	4	企業アンケート（卒業生の評価）や、企業訪問時（教育担当者との意見交換など）、就職先での技術大会への選抜状況などを通じて把握している。 就職先企業の社内技術大会において、高い評価を得ている（特定メーカー社内大会で全国優勝など） 卒業生に対するアンケートで、卒業生全体の状況を、企業訪問時（インターンシップ訪問など）、就職先の技術大会への選抜状況などで、個々人の状況・評価を把握している。	昨年に引き続き、企業の教育担当者に卒業生の評価を伺うとともに、弊校教育の方向性について意見交換を行ない学校が育成する学生像・育成している内容などを共有した上で企業での学生の社会的評価の確認に繋げていく。 また22年度からは、実習授業で自主性・主体性をルーブリックにより、評価（行動訓練）を取り入れ、企業側の評価を含む一貫性を持った教育にシフトしている。	a.企業アンケート b.卒業生アンケート c.販社懇談会議事録 d.ルーブリック評価
【CM科】 【MM科】		3	CM科：車体系企業就職者も対象にして、企業アンケートを実施したが、内容が整備科同様で、技術評価部分が不適となっている。 MM科：21年度の卒業生は13名と過去最多となるが、企業アンケート数は、整備科同様の内容で実施している。	CM科：22年度卒の評価については、実施の有無を含め方向性を改めて検討する。 MM科：整備科、一級科とほぼ同じ就職先であるため、同様のアンケートを実施しているが、MM科卒については、別途集計を行い、他の学科との比較を行う必要がある。	

基準5　学生支援

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	4	学務部職員と教員とが連携し、学生の支援は円滑に行われている。（求人情報の取得から、教員・学生への展開はスムーズであり。企業別・個人別の進捗状況は、リアルタイムで確認され、学生と連携している。） 学務部にて、校内のメジャーな就職先の企業ガイダンスの実施。 企業情報の提供、企業訪問、会社説明会の展開も行っている。 （16年度より、企業情報を一同に比較できるようweb公開し、情報提供も充実してきた） クラス担任との学生個別面談（就職先企業選択など）・学務部職員との個別面談（就職先企業の情報確認など）によるアドバイスを適宜行っている。 また、キャリアコンサルタントの国家資格を持った職員も常勤している。 クラス担任・学務部職員・外部講師により身だしなみ指導、履歴書の書き方から面接試験等のトレーニングまで実施し、体系的に就職教育、指導を行っている。	進路に関する支援組織体制は、学校一丸となった支援体制を構築している。（就職を担当する部署や人員を明確に設定、学校全体として就職状況の共有、キャリアコンサルタントの常勤、学務部職員とクラス担当との連携　等） この体制を崩さずに、学生が希望する就職ができるよう支援を続けていくことが重要であると認識。 「支援の一例」 学生の就職意欲、能力に差があるため、就職先選択の重要性、適性を鑑み、内定するまで継続指導していく。また、企業連携として企業から講師（採用担当部署長、卒業生）を招き、やりがい・目標など将来の職業理解や自動車新技術の魅力を伝える授業など、様々な産学連携授業で職業観を育む。 個社から定期的に情報を入手し、学内webサイト、掲示板で公開・活用している。さらに今後は様々な自動車新技術のレクチャー授業、企業との懇談会（企業ガイダンス以外に）の場を設定し、早期から企業側とのコミュニケーションで、適性に能力にあった悔いのない企業選択をさせている。 また、就職試験対策として、外部講師（キャリアアドバイザー）を招き、身嗜み、履歴書作成、面接指導も行っている。最近は留学生も増えている事から、留学生限定の就職指導授業も追加実施。また全国日産販売会社にも積極的な留学生の求人を促し、採用担当者を招きマッチングを図っている。	特になし

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-2 退学率の低減が図られているか	4	・19年度より、低い退学率を維持し、21年度の退学率では、3.6％と近年最も低い実績であったが、22年度になり、メンタルでの退学が目立ち、5.9％まで上昇してしまった。 留学生に対しては、適宜フォローを行い、学生のモチベーションの維持、向上に注力してきた。 （退学させないことが目的ではなく、育成はきちんとやる中で、前向きなモチベーションをどう持たせるかで進めている。） ・基本的な退学防止策 楽しい学校であること。車が好きになること。を推進することで学校とのつながりを強化し、退学率の低減につなげていく。 ・メンタル的な課題 　メンタルの課題を抱える学生も増えてきており、保護者との連携を更に深め、障害の軽減に努めている。 事案によっては、専門カウンセラーの指示のもとに対応している。 学生カウンセリングについては増加傾向。1日に5名以上、対応することもある。効果は直ぐには出ないが、学生のニーズは高い。	・昨今、入学前より精神面での課題を持った学生も入学してくることが多くなっている。入学前に高校での聴き取り、保護者からの聞き取りなどをして、事前情報の入手して適切に対応できるようにしている。 ・担任、副担任は四半期ごとに課題のある自クラスの学生全員との面談を行い、学生状況の把握と成績、生活面での相談を聴くことを18年度から実施。 ・最近のハラスメント対策等の必要性論議を受け、17年度より、学生相談窓口を開設し、いつでもメールでの相談を受けられる体制を整備しスタートした。更に教職員へは、隔月ごとにハラスメントについての自己チェックを行っている。今後も継続して意識を高めていく。 ・留学生のフォローについては、昨年度、職制及び統括による個人面談を行っていたが、コロナ禍の影響により、その機会も失われた。23年度には、ぜひ再開を果たし、学生生活を基本に意見を聞き入れていきたい。	a. 退学状況

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-3 学生相談に対する体制は整備されているか	4	・各正副クラス担任が、学校側からの定期・不定期の学生面談を行っている。また、学生の相談にも応じている。 （教員に対しては研修を実施し、スキルアップの機会を設けている。） ・最近のハラスメント対策等の必要性論議を受け、17年度より、学生相談窓口を開設し、いつでもメールでの相談を受けられる体制としている。 ・メンタルのカウンセラーは定期（1回/月）の体制で実施している。カウンセリング終了時には、学級担任と連携し指導方法等の確認を行っている。	・メンタル等、の問題を抱える学生は、増加傾向にある。 学生カウンセリングの増加に伴い、定期的な面談以外にも状況に応じて柔軟に対応する必要がある。また、保護者との連携も密に進めていく。 また、早期の対応が必要と判断した場合には、遠隔（web会議システム等）での面談を実施している。	特になし

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-4 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか。	4	・学生支援機構の奨学金制度、学校独自の奨学金制度（特待生奨学金、遠隔地奨学金）、企業や国が支援する奨学金制度、その他資金融資制度を設けており、希望者へ勧めている。 ・企業からの学費支援として、全国の日産販社が「企業奨学金制度」を導入が進んでおり、整備士を志す高校生への支援を行っている（貸付、返還支援など） ・また新たに経済的に厳しい世帯への支援として、SuperGTスポンサー企業が給付型奨学金制度を設立した。 ・在校生全員を対象に学費分納制度は16年度より実施。22年度は131名の利用者があった(全体の40.0%) (日本人34名 日本人の17% / 留学生97名 留学生の78%) ・低所得家庭の学生の受け入れとサポートを拡充させるため、19年度での高等教育修学支援制度の機関要件をクリアし認定校となったため、毎年経済的な支援を求める新入生はじめ在校生に対し積極的な告知を行った。	・経済的に厳しい世帯が増加に伴い学校独自の「学費分納制度」独自の「奨学金制度各種」のニーズも高まっており継続して対応していきたい ・将来その企業へ就職する条件で学費援助を行う「企業奨学金制度」を導入する販社が全国119社中98社あり（今年度、当校入学者で企業奨学金適用12名）。今後も拡充・働きかけを引き続き行いたい。 ・進学希望でありながら進学をあきらめてしまう学生（高校）に対して、国の奨学金「高等教育修学支援制度」の機関要件を満たした当校の認知を高め、該当する新入生に対し、積極的にPR/サポートを行った（新入生は14名適用見込） ・再進学を考えている社会人・フリーターを対象に経済的支援職業訓練策「雇用セーフティネット訓練」制度の活用の働きかけも併せて実施していく（今年度、既卒者入学のうち10名が適用）。 以上、学費サポートメニューを学生個々にあった経済的支援内容を、当校の学費アドバイザーが提案していく。	a. 募集要項（奨学金/分納制度）

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-5 保護者との連携体制を構築しているか。	4	学生の勤怠、学業、生活態度、トラブル等、懸念されることは、主に電話にて保護者と綿密なコミュニケーションを図っている。ケースによっては、保護者面談、家庭訪問などを行い、学生情報の共有、指導方法、進路相談等について連携をとっている。 また、学校からの保護者への連絡をタイムリーに行うため、「Web緊急連絡網アプリ（きずなネット）」という保護者がスマートフォンで連絡確認できるシステムを活用している。	保護者、学生への緊急連絡の手段として各教員へIPフォン（050）の導入を18年度より開始している。 また保護者へ情報提供として当初HPに保護者ページを設定したが、2020年から外部の「Web緊急連絡網アプリ」を導入し、緊急時・非常時に、保護者ならびに学生本人への迅速な連絡が出来るようになった。特にコロナ禍で学内感染発生時に、迅速に感染状況、授業変更等の情報を提供を迅速に行った。	a. 学生動向報告 b.きずなネット学校Web連絡網

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-6 卒業生への支援体制を構築しているか。	2	企業の採用担当者とは連携し、直近の卒業生の現況を確認している。なにか問題があれば企業へ協力あるいは個別に卒業生サポートを行っている。 また、制度は存在しないが、卒業生から相談があれば、随時対応している。（就職先の相談など） また、校友会（同窓会）について、コロナ禍で、学校へ招待するイベントの機会もなく、校友会としての機能を充分果てしていない状況である。	校友会は学校とは別組織となっているが、校友会のあり方や取り組みについて、あらためて検討を図る	a. 校友会体制表

基準6 教育環境

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
6-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備しているか。	4	カリキュラム対応/新車・新技術対応ができるよう年々の整備・更新している。中期での設備投資を計画している。 実習後の車両整備、定期の機器の点検整備を実施している。 施設、設備の更新については、教育上の必要性に鑑み、中期計画、年度計画を通じて、計画的な更新を行っている。 機器の整備については、専門業者による定期のメンテナンス、教員による実習後の復元の体制で維持している。	投資効率の高い（投資額は少なく、教育効果が高い）計画とするため、教科担当教員と相談の上、優先順位を付けて見直しをしていく。旧型の教材（現行車に対応していない）や傷みの激しい教材の更新を優先的に実施中。 その他の教材のメンテナンスについては、定期的にフォローしていく。	a. 設備投資計画表

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
6-2 学外実習・インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	整備科2年課程においては、22年度も引き続き、コロナ禍の影響の影響により、学外実習（新入生研修）・インターンシップ（各課程最終年次）は中止とした。 一級のインターンについては、評価システムがあり、また卒業要件であることから、継続して行っている。	・一級工学科のインターンシップは、養成施設において指定基準があり、それに沿って実施内容が決まっている。 一級以外のインターンシップ(内定者研修)では、引き続き企業と連携を取り教育上必要な内容について実施していく。（2020年度以降は、コロナ過の影響により、中止） ・※カリキュラムの改訂から、2020年以降は海外研修は開催せず、産学連携授業の更なる強化、充実を図っていく。	a.インターンシップ計画表（一級、整備科） b.年間計画（カレンダー、凡例）

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
6-3 防災に対する組織体制はを整備し適切に運用しているか。	2	・自衛消防隊を毎年組織している。 ・地震に備え防災倉庫も保有している。 ・学校や学生寮における防災訓練（火災）や地域特性による津波避難訓練をを毎年定期的に実施してきたが、コロナ禍の期間は実施できていなかった。	・コロナ禍で実施できなかった防災訓練を実施する	a.防火訓練計画・要領 b.防災組織表

基準7　学生の募集と受入れ

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
7-1 学生募集を適正、かつ効果的に行っているか。	4	・適正（年度計画を作成し、目標に対する諸活動を明確にしている）に行っているが、若者の車離れや18歳人口の減少により目標達成は厳しい状況。 ・近年、目標を達成できていない。日本人の学生はほぼ横這いであるが、コロナ禍の影響により留学生が入国できず減少が著しい。 ・CM科：CM科の魅力向上のために、BP基本技術だけで留まらずるエアブラシ実習や車体技術に関する視察を実施。また卒業課題として、姉妹校学生とも車両制作のコンセプト企画等を連携した授業を実施。学生がデザインから制作までを行ったカスタマイズ車両を外部イベントに出展し、自ら来場者へ説明している。 ・MM科：募集段階での発信は効果が出ている。途中でCM科へ転科するケースが増えつつある。在学中も継続して、MM科の魅力発信を検討していく。 ・経済的に厳しい家庭環境下の高校生に対しては、国の奨学金制度を始め、学校・企業独自の奨学金制度を紹介し、安心して進学できる学費サポートも行っている。	自動車整備希望の高校生は減少傾向にある。 次年度目標を達成する為の施策の積み上げ、年度毎の状況に沿った方針や対応策をとる。 【方策】 ・学校案内、HPを今年度リニューアル ・学内外へ情報発信の取組みの強化（SNS、HP、プレスリリース等） ・将来の仕事をイメージさせるため、積極的な企業連携で高校生・保護者の対応を行い、企業推薦学生が増加（販社奨学金の拡大、オープンキャンパス協力、店舗内学校説明会、就業体験の受入れなど募集活動） ・非課税所得世帯への高等教育修学支援制度の活用PR ・日本語学校への働きかけによる留学生の誘引活動 ・低学年層からの自動車業界の魅力の訴求活動（就業体験、模擬授業の促進） ・複数回のweb学校説明会や現地日産販売会社での職場見学会などコロナ禍で安全・安心できるイベントの開催した （さらに感染予防対策を講じた学校イベントの開催に努める）	a. 募集活動計画(方針) b. 昨年度振り返り資料 c. 販社連携活動方策の提案 d.学費サポート一覧 e. 出展車両制作チラシ

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
7-2 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか。	4	AO入試、一般選考、推薦選考すべて、基準に基づき公平に合否判定を行っている。アドミッションポリシーを整理すると共に、それの実現に向けた方策の検討を行った。 ・コロナ禍による留学生減少はあるが、留学生応募も一般化していることから、外国人の入学レベルの基準を明文化し、整備分野への進学を考えている日本語学校へ説明を行っている（指定校制度基準も含む）	・全学科にAO入試も導入し、自身にあった様々な選考方法による受験を可能とした（AO、指定校、企業推薦、一般） ・留学生の入学基準（書類、学力、コミュニケーション、学費支払い等）を明確にし、入学後のリタイアを回避できるよう努めていく（選考基準表の明文化） ・企業奨学金とセットになった日産販社の企業推薦制度による入学も増えている（今年度企業推薦入学12名） ・留学生指定校推薦制度も導入し、特定の日本語学校とのパイプ強化を図った ・FY20より日本語学校31校に「指定校推薦」を導入し学校とのパイプ強化を進めている（今年度指定校応募6名）	a.入試面接表　合否判定資料 b.指定校案内文書（高校、日本語学校　別） c.募集要項

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
7-3 経費内容に対応し、学納金を策定しているか。	4	妥当と認識している。 （教育内容、世間相場を考慮して改正をおこなっている） 高等教育負担軽減策の減免金額を参考に授業料とその他学費の見直しをした。（合計の学納金額は変わらない）	自動車技術理解度向上のため、FY22よりICT授業を本格化する。そのため22年度新入生に対しノート型PCを配付し、学科・実習授業から先生とのコミュニケーションツールとして学校生活全般で活用できるよう準備を進めている。今後も教育の質・量の充実のため、その都度学納金の見直しをしていく。	a. 募集要項

基準8 財務

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
8-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	中期計画では長期投資を見込んだ計画を策定しているが、直近では学生数の減少傾向を受けて投資抑制の見直しを行った。 長期的な財務基盤は安定しているが、常に学生数の規模に応じた学校経営を検討していく必要性を認識している。 財務基盤の安定化のため、新たに外部からの寄付金募集の検討を開始。 2019年から毎年、日産自動車(株)から、学生および教職員の環境改善のための寄付が寄せられた。 トイレ改修をはじめ、換気改善工事も行い、コロナ禍にも対応した。	将来的に学生数減少が予想されることから、収入確保方策を展開すると同時に、収入に合わせた学校運営を目指していく。 引き続き、日産自動車からの教材提供や寄付金など、学納金以外の収入を継続的で安定的なものにしていく。 寮生が漸減しており、学生寮経営が厳しくなりつつあったが、グループ企業である愛知機械工業社員寮としても利用頂くことで、収支の改善につなげている。特にコロナ禍において、留学生が激減したことによる学生数減少による収入減の現実がある。 2024/4入学では、学生数が反転する計画としているため、達成できるように全教職員が一丸となって取り組んでいく。	a.資金収支計算書 b.事業活動収支計算書 c.貸借対照表 d.寄付金募集(ホームページ)

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
8-2 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか。	3	教育を円滑に進めていくために必要な資源確保のための予算を策定しており、有効かつ妥当なものになっている。 中期計画では建物・設備を中心とした投資計画を策定している。 老朽化した説明では、開校から30年近く経つため、空調整備を中心に更新を計画し完了した。 日産自動車(株)からの寄付により、校舎内の全トイレを更新し、学校生活での質も向上させた。教室、更衣室をはじめとした換気強化などの安全衛生上でのコロナ対策など強化している。 車両用エレベーターを更新するなど、計画的に保守、メンテナンスを実施している。	学生数減少による収入減に対応すると同時に、教育設備や機材の老朽化対応をバランスよく実施することが課題。 学生数確保の方策検討は喫緊の課題であり、中期計画レベルでの検討を継続していく。 大規模修繕は進んできたが、3F駐車場のフロア防水、校舎南側壁面のメンテナンス、LED照明への切り替えなどが残っている。 契約をしているコンストラクションマネジメント企業と相談をしながら、修繕計画を作成していく。	a. 中期計画(2021～2024年) b. 2022年度活動実績

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
8-3 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を行っているか。	4	公認会計士/監事による監査を実施し、5月の理事会評議員会で報告を受けており、適正に行われている。 2017年度より経理処理に関する内部監査を開始しており。運用の適性化を図っている。 学生寮の一部を日産グループである愛知機械工業株式会社に貸出をするため、寄附行為の一部を改正した。	経理においては、学園管理部署における監査を行っている。来年度からは、グループである日産自動車による監査を実施した。 その指摘事項の改善に努め終了した。 今後は改善策の定着が課題となる。 大きな欠陥はないが、指摘事項の改善を重ね、適正かつ透明性を持った健全な収支に努めていく。	a. 監査報告書

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
8-4 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか。	4	学校HP上に「情報公開」ページを設定し、「資金収支計算書」「消費収支計算書」「貸借対照表」を公開している。 毎年7月に定期更新を行っている。	特になし	a. 情報公開(ホームページ)

基準9　法令等の遵守

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営を行っているか。	3	本校は、学校教育法、専修学校設置基準、一種養成施設認定規則、などの該当する法令には準拠しており、適正な運営が図られている。 学生の法令順守という意味では、近年社会問題にもなっている車両の違法改造、道交法の順守について、啓蒙活動は強化しているが、交通事故のように目立った減少を見ないものもあるため活動を継続する。また、未成年の飲酒、喫煙についても注意喚起を行っている。 情報のセキュリティや、個人情報保護については、システム的な保護、教職員への周知の両面で徹底してきており、トラブルは発生していない。一方、学生に関しても、啓蒙活動を継続しており、ツイッターなどSNSでの学生のトラブルは落ち着いている。 薬物乱用においても、愛知県警のご協力で全学生を対象にご講演を頂き、学生へ注意喚起を行っている。 （21・22年度は、コロナの影響により、内製で実施） 留学生が犯罪に巻き込まれないように、留学生を対象とした説明も実施している。	年々学生は入れ替わる為、学生の法令順守に対する啓蒙活動は今後も継続していく必要がある。 違法改造、道交法に関するもの、未成年の飲酒、喫煙。更には昨今問題となっている違法薬物防止についても周知徹底の為の活動を継続しいていく。また、特殊詐欺でのアルバイト名目で「出し子」「受け子」の役割を引き受けてしまわないような注意喚起も継続的に行っていく。 外国との環境、文化の違いから、犯罪に発展することも懸念される。また、留学生が知らないうちに犯罪に巻き込まれることのないように、入学前の段階から情報発信をしていくとともに定期的に実施することが必要である。 メール等、外部への発信については、自動パスワードを設定するPrimeDriveを利用しデータ漏洩を防止する。また学内での発信については、業務フローに則り、作業を実施することで再発防止の徹底を図る。	a. 国土交通省監査関係書類

[redacted]

点検小項目	評価	ア　現状認識・評価等	ウ　課題とその解決方向	参考資料
9-2 職業実践専門課程の認定要件を満たし、適正な教育運営を行っているか。	4	職業実践専門課程の認定要件を満たし、適正な教育運営を行っている。 2019年度から、これまで、単年の課程であった各課程を、自動車整備科からの通年の課程に変更した。 「自動車整備・カーボディマスター科3年課程」、「自動車整備・マスターメカニック科3年課程」「自動車整備・トータルマスター科4年課程」とした。 （単年の課程は、2020年～2021年で廃止となった） 愛知県学事課へ申請し、受理された。 2022年度においては、「自動車整備・カーボディマスター科3年課程」、「自動車整備・マスターメカニック科3年課程」に対応した教育課程編成委員会を立ち上げた。整備系、および車体系の連携も踏まえ、今後、職業実践専門課程へ申請を行い受理され、現在承認された。	・日産自動車を中心に（産学連携）企業数社と連携しての授業実施。また、一級課程の卒業研究やカーボディマスターのカスタマイズ車両製作の支援など、連携は広く、深くなってきている。今後も更に有益な連携ができる企業を模索していく。カスタマイズ車両作成への支援を広く求めていく。 FY23では、「自動車整備・トータルマスター科4年課程」を申請を行う。	a. 職業実践専門課程申請関係書類 ※事前には、HP情報公開で確認方

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-3 学校が保有する個人情報に関する対策を実施しているか。	3	・統一の教務・学務のシステムでは、適切なアクセス権が設定され、不必要なデータへのアクセスが出来ないようになっている。 ・教職員には、情報セキュリティや、個人情報保護に関する教育を通じ、情報の重要性、扱いの注意を徹底している。 外部に対しても、学生・保護者を含め、情報管理方針を明示し、対応を明確にしている。 学生に対するSNSによる不適切動画の危険性などの啓発活動により、大きなトラブルは無い。	引き続き、教職員向けの情報セキュリティ勉強会など教職員に対する啓蒙活動を行っていく。18年度からIPフォンの導入とクラウド電話帳の活用により、教員の個人端末（スマホ）への学生情報保存の禁止などの対策を講じている。 更に個人情報漏洩を防止すべく、学内での研修並びに防止策の検討も併せて実施し、ハード面、ソフト面の啓蒙も行っていく。 学生のSNS関連のトラブルのリスクの存在は変わっていないが、啓蒙教育及び注意喚起を継続していくことで、問題の発生を防ぎたい。	a.個人情報管理方針(HP) b.人事規定（機密保持） c.情報セキュリティスタンダード d.学生個人情報の取扱に関する同意書

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-4 自己点検評価、学校関係者評価を適切に行っているか。	4	学校の自己点検は2013年度から、関係者評価は2014年から実施している。	2022年度は6月に学校関係者評価を実施。いただいたご意見を学校教育に織込むと共に、報告書を学校HPに掲載している。 委員会委員からの指摘事項については、迅速に学内で共有し、次年度の学校運営の改善を図れるよう授業・学校行事等に反映し教育の質の向上に努めている。	a. 自己点検結果（HP） b. 学校関係者評価結果（HP） ※HP情報公開で確認方。

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-5 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか。	4	教育情報についても学則・カリキュラム・シラバス・資格取得実績・就職率等、2014年度からHPにて公開している。	2018年度より学校教育の理解促進のために、より詳細な情報として合格率・就職率・学生数等、の詳細情報を開示している。 （年度別・個別詳細等）	a. HP（学則・カリキュラム・シラバス等） ※HP情報公開で確認方。

基準10　社会貢献・地域貢献

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
10-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	・地元企業、関係団体の要望に対して、積極的に保有施設・設備の貸し出しや、当校で可能な講座の提供を行っている。 高校からの講演要請にも、自動車関連企業と連携して、その要請に応えており、その活動範囲は広がりつつある。 ・近年は近隣の方々への学校イベントの告知や誘引を学生が主体的に行っており、地域とのコミュニケーション醸成が図られている。 ・定期的な地域清掃活動を支援して頂く、クリーンパートナー協定を名古屋市と締結し、今では定着した活動となっている。 また、社会福祉協議会主催の「ふれあい広場ボランティア」にも参加。学生寮の町内のお祭りや運動会などにもボランティア参加をしている。（近年はコロナの影響により、クリーンパートナーでの近隣の清掃のみ実施で、他は中断となっている） ・高校：職業教育への支援活動（専門学校見学） ・企業：地元企業の新入社員への初級整備技術教育の実施 地元企業の整備技術大会の人的・物的支援・学生見学 ・団体：国家試験会場の提供	引き続き地域ボランティアや学園祭等を利用して、高校・企業・団体・地元地域との関わりを深くすることで、地域活動への参画を増やし、社会性を校内に取り込み教育の質を向上することに繋げていく。 2020年以降においては、新型コロナウイルス感染予防により、殆どのイベントを中止としてきたが、22年度には、万全な感染防止策を講じながら、再開し始めている。	

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
10-2 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか。	3	・学校では、定期的に教職員とともに地域への清掃活動を行っている。 ・寮では、地域の行事へボランティア参加を寮生に呼びかけて実施している。 ・鈴鹿サーキットで開催されるレースにおいて、オフィシャル活動を行っている。 (2020年以降は、新型コロナウイルスの影響により不参加)	・地域清掃活動においては、自発的に多数の学生が参加しているが、更に学生への浸透を図っていきたい。 ・その他、ボランティアに参加できるような機会の提供を引き続き検討したい。	

基準11　国際交流【必要に応じて】

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
国際交流活動を行っているか。	3	・留学生の受け入れを拡大し多様性の文化を図っている。	・留学生の増加に伴い、留学生と日本人学生との交流を図り、多様性を受け入れている。 ・22年度の学生は、留学生数が2/3を占めることから、1年次は、日本人クラス、留学生クラスと分けたが、2年次にはクラス替えを行い、混成のクラスとした。	